

和歌山県の道路管理

和歌山県県土整備部道路局道路保全課

1 和歌山県の概要

(1) 地勢・気象

● 面積

和歌山県は紀伊半島の南西部に位置し、北は大阪府、東は奈良県と三重県に接し、南は熊野灘に接し、西は紀伊水道をはさんで徳島県と向かい合っています。東西 99.7km、南北 106.3km に及び、総面積は 4,726 平方キロメートルで国土の 1.25% を占めています。

本県は古くから「紀（木）の国」と云われ、面積の大部分は紀伊山地を中心とする山岳地帯で、高野山、那智山など古代から親しまれた山々が多くあります。

- ・ 県土面積 4,726k m² (全国 30 位)
- ・ 可住地面積 1,068k m² (全国 31 位)
- ・ 森林率 77% (全 6 位)
(森林面積 3,636k m²)

● 河川

河川のほとんどはこれらの山々に源を発し、流域は河口付近をうるおして紀伊水道や太平洋に注いでいます。また、比較的傾斜の急な山が多く、河川においても急勾配で洪水や土砂災害が起こりやすい地形です。

● 海岸線

海岸線は、和歌山市から新宮市まで 648 キロメートルに及ぶリアス式海岸で、黒潮おどる変化に富んだ海岸美を誇っています。

● 気候

気候は、県北部が日照時間が長く、降水量が



少ない瀬戸内気候区で、南部は黒潮の影響を受けて一般に温暖で雨量も多く、いわゆる太平洋型気象を示しています。全国的に見て四季の温度の変化は少ないほうで、特に南部は冬でも暖かく南国ムードに満ちています。

(2) 人口

人口	1,035,969 人 (全国 39 位)
男性	488,022 人
女性	547,947 人
人口密度	217.6 人 / km ² (全国 29 位)
就業人口	478,478 人
第 1 次産業	49,873 人 (10.4%)
第 2 次産業	110,347 人 (23.1%)
第 3 次産業	310,170 人 (64.8%)

2 和歌山県の道路の現況と課題

和歌山県の道路は、大阪府県境から海岸線に沿って南下する近畿自動車道紀勢線を軸とし、一般国道11路線、県道190路線、市町村道28,176路線があります。しかしながら県土の約8割が山地部であることなどから、全国や近畿と比較する

○和歌山県内の道路

		路線数	実延長 (km)	改良率
一般国道	国土交通省管理	3	306	100%
	県管理	8	710	58.90%
	計	11	1,016	71.30%
県道	主要地方道	47	944	51.80%
	一般県道	143	965	32.10%
	計	190	1,909	41.80%
市町村道		28,176	10,242	40.10%
県管理道路 (県管理国道+県道)		198	2,619	46.50%

※国道、県道は5.5m以上の改良率 (平成19年4月1日現在)



高速道路ネットワークの形成

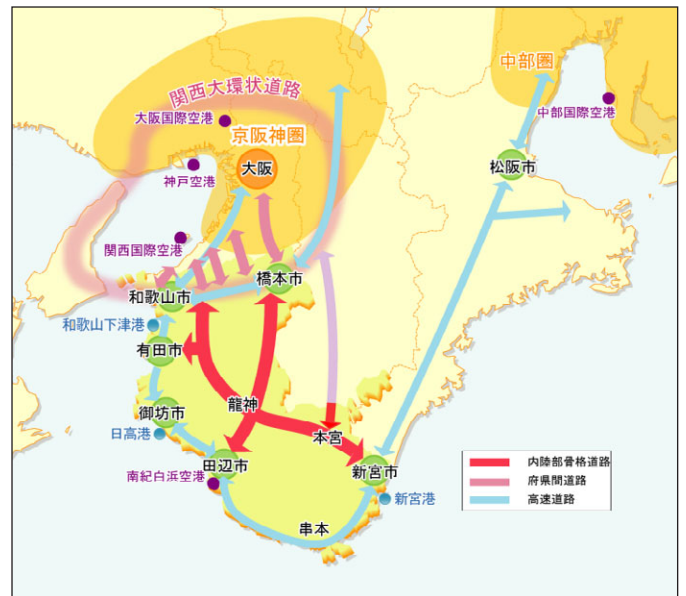
と道路整備は遅れています。

道路は、あらゆる活動の基礎となるインフラであり、ナショナルミニマムを保障する根本です。県勢を活性化するためには、グローバルな交流を支える、高速道路(近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道)ネットワークや、大阪府との連携を強化する府県間道路、県内の一体的発展に寄与するX軸ネットワーク等の内陸部骨格道路などの道路網の早期整備が不可欠です。

○和歌山県の高速度道路の供用率

	高速自動車国道	内、整備計画延長	内、供用延長	供用率
全国	11,520km	9,342km	7,521km	81%
和歌山県	177km	100km	62km	62%

※上記の他、湯浅御坊道路19.4km、那智勝浦新宮道路8.9kmが2車線供用済



府県間道路、内陸部骨格道路X軸ネットワーク(案)の整備

3 地域住民、NPO 法人等民間団体との協働

(道路愛護会)

和歌山県では、昭和30年代から地域の住民等が主体となって、道路の清掃や草刈り等の活動を行うことにより地域の道路の維持に協力する道路

愛護会があり、この活動に対し、県は活動費用を助成してきました。平成19年度末現在では、県下で106団体が登録されており、年に1~2回、地域で道路の美化活動を実施しています。



(わかやま道路パートナー)

この道路愛護会の取組とは別に、平成18年度からは、年間を通じて道路の維持管理に協力してくれるボランティア活動団体を支援する「紀の国マイロード事業」を始めました。

紀の国マイロード事業は、県が管理する道路の一定区間において、道路利用者が清掃や除草、花の植栽等の活動を実施することにより、地域に対する愛着や誇りを育み、参加団体と道路管理者の協働により、豊かで快適な道路空間を創造することを目的としたものです。

地元自治会、企業やNPO等民間団体の参加団体と県が協定を結び、参加団体は、花壇への花の植栽、街路樹管理や歩道の清掃・除草等の継続的な活動を行い、県は、参加団体の活動に対し、活動中の怪我に対する傷害保険の加入や必要な物資の提供又は貸与等の支援をしてきました。

平成20年度には13団体が、花壇に花を植えたり、街路樹の剪定や、路肩の草刈り等自分たちの

地域をきれいになりたいと熱心な活動を続けてくれています。

平成21年度からは、紀の国マイロード事業を一步進めて、意欲のある地域住民が主体的に参画することにより、地域住民と県が、「公（道路環境）」を「共」に担う新たな維持管理を目指す、「わかやま道路パートナー事業」を導入することにしました。

これまでの制度では、企業や民間団体の参加しか認めていませんでしたが、これに地域住民の参加を認めることにより、より多くの方が参加しやすいものになるものと考えております。支援の仕組みとしては、これまでの制度と同様、参加者の環境保全活動に対し、花の種苗等物資の提供・貸与、傷害保険への加入、サインボードの設置等の支援を行っていくものです。

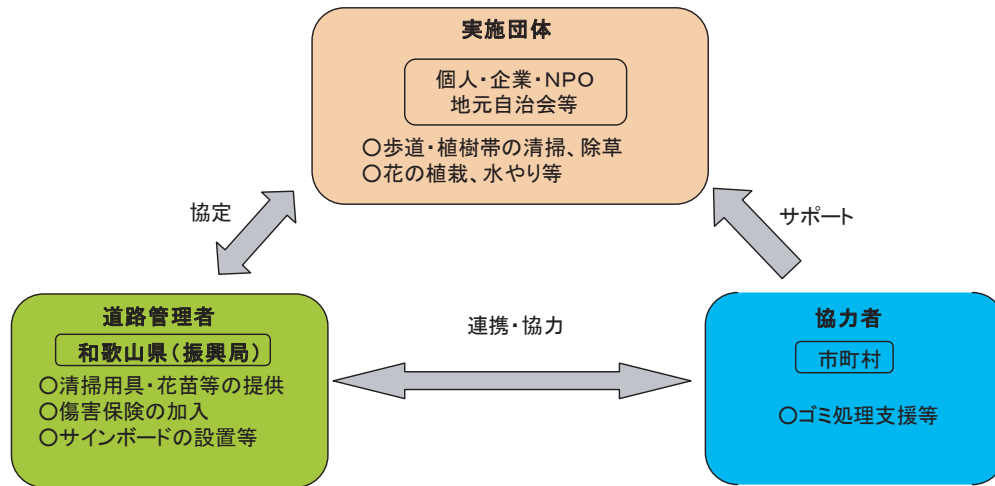
また、わかやま道路パートナー制度では、スポンサー企業も募集しています。スポンサー企業は、花の植栽や清掃活動といった直接的な活動するの



ではなく、道路の維持管理費の一部を負担することにより、道路環境の維持に貢献してもらうものです。

快適な道路空間を創造していくためには、県と地域住民や民間団体との協働が、ますます重要な

ことだと考えており、このためには、地域住民や地元自治会、企業、民間団体等へ働きかけることにより、わかやま道路パートナー制度の普及を図っていきたいと考えています。



4 ゴミ持ち帰り運動

本県では、昨年9月から道路パトロール時や業務で現場へ出かけたときのゴミ持ち帰り運動を始めました。

道路の余幅部や法面、中央分離帯などに空き缶や弁当ガラのゴミが落ちているのをよく見かけます。道路の清掃は、清掃車等で定期的には実施しているところですが、車道が中心となっていることや清掃に係る人員等態勢の面で十分にできないのが実状です。

そこで、道路パトロール車やその他の公用車にゴミ袋等を積んでおき、落ちていたゴミに気づいた都度拾おうというもので、観光振興に力を入れているなか、訪れた方々をきれいな道路で出迎えたいと考えております。

今後もゴミ持ち帰り運動を続けていくことにより、県民の方を始め、道路利用者に環境美化の意識が高まり、ゴミのポイ捨てのないきれいな和歌山を目指したいと思います。

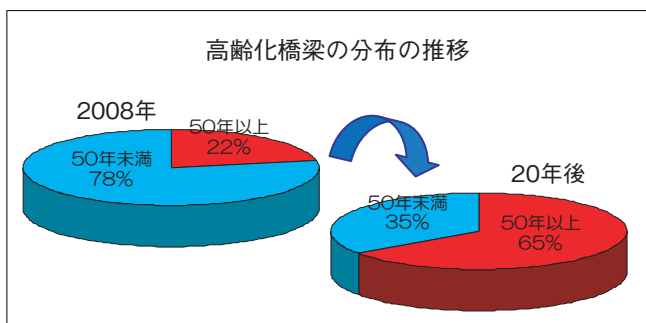
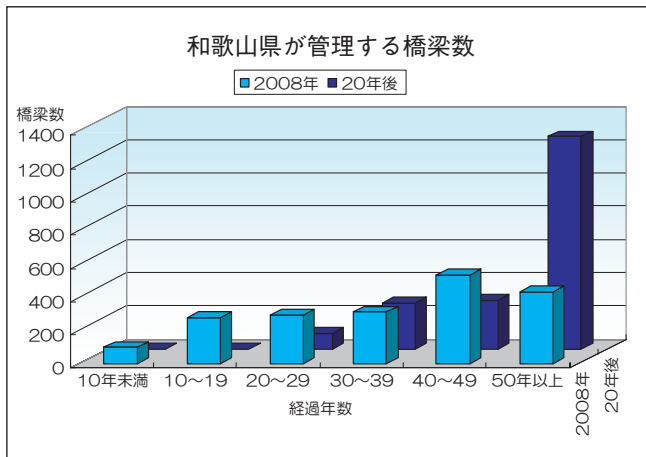


ゴミ収集状況

5 橋梁長寿命化修繕計画

◆ 背景・目的

和歌山県が管理する橋梁は、現在約 2,400 橋あり、このうち建設後 50 年を経過する高齢化橋梁は約 22% を占めている。20 年後にはこの割合が 65% に上り、急速に高齢化橋梁が増大する。



このような背景から、今後増大が見込まれる橋梁の修繕・架替えに要する経費に対し、可能な限りのコスト縮減への取組みが不可欠となる。

和歌山県では、以下の目的のもとに長寿命化修繕計画を策定し、橋梁の維持管理を行うこととしている。

① 安全で信頼できる道路橋の確保

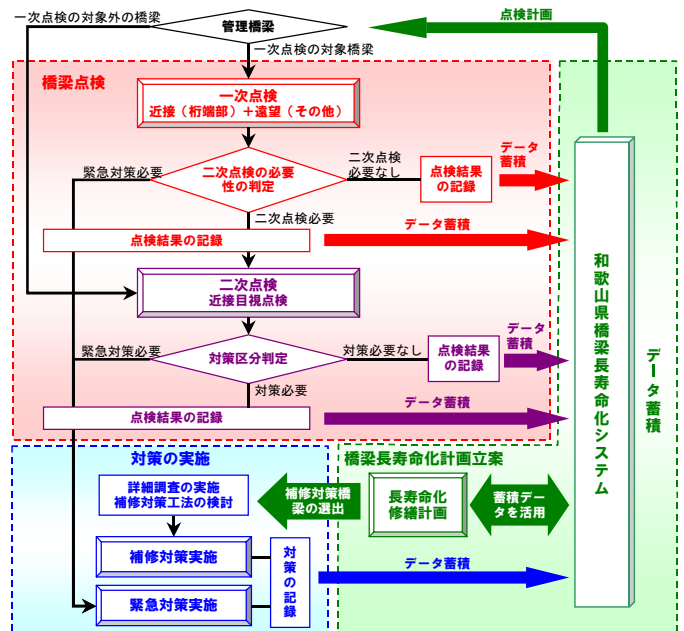
今後高齢化の進む橋梁の安全性を確保し、信頼して利用できる道路ネットワークを確保する。

② コスト縮減、必要予算の戦略的適正化

これまでの対症療法的な対応から、計画的かつ予防的な対応に転換を図り、橋梁の長寿命化によるコスト縮減を図る。さらに、橋梁の長寿命化に必要な予算を戦略的に平準化し、実現可能な適正化された予算計画を立案する。

◆ 橋梁の維持管理体制

和歌山県では、下図のような維持管理体制を構築し、橋梁の長寿命化及び維持管理コストの縮減に向けて取り組んでいる。



橋梁点検では、スクリーニングプロセスとしての一次点検を定期的に行うことにより損傷を大まかに把握するとともに、必要な橋梁に対しては二次点検を行い詳細に損傷状況を記録する。

これらの点検データは「和歌山県橋梁長寿命化システム」に登録し、データの蓄積を行う。

また、「和歌山県橋梁長寿命化システム」のシミュレーション機能を活用した長寿命化修繕計画を策定し、計画に基づいた補修対策を着実に実施することにより、安全で信頼できる道路橋を確保する。

今後は、この維持管理体制を継続的することで、持続可能な維持管理を実践することとしている。

6 道の駅情報提供システムの改良

◆ 背景

和歌山県では、県管理道沿いの「道の駅」に対し、平成11年度から計15箇所に情報端末を設置し、通行規制や観光情報を一般利用者に提供しています。しかし、設置から10年近くが経過し、利用者からシステムの操作や情報のリアルタイム性について問題が指摘されています。



道の駅「おくとろ」



道の駅に設置している情報端末（県内15箇所に設置）



◆ 目的

このような背景から、情報端末で提供するコンテンツやシステムの機能を見直し、システム改良を実施するとともに、高速な通信回線によるインターネット接続を実施し、利用者のニーズに対応することとしました。



道の駅情報提供システム（トップ画面）

◇ 主要コンテンツ



道路交通



気象・災害



道の駅情報